

物流請け負いに ロボッツが参入

ドローンで食品輸送注力

ドローンの操縦士養成スクールや体験イベントを手がけるROBOZ（ロボッツ、恵那市）は、新型の物流用ドローンの機体販売、導入指導、物流業務の請け



デモフライトで物資を運ぶフライカート30＝美濃市曾代、ドローンミュージアム&パークみの

負いサービスに乗り出す。

食品輸送などに注力し、物流の請け負いで5年後に3億円の売り上げを見込む。

取り扱うのは、ドローン

世界最大手の中国企業DJI製の最新の物流用機体「フライカート30」。全

長約3メートル、重量65キロ、積載重量は最大40キロ、航続距離は最長16キロ。専用ソフト

を使った自動航行、長さ15メートルのウインチを備え、着陸場所が確保できない所に荷物を降ろせるほか、墜落防止のパラシュートがある。

国内の代理店から仕入れて販売し、初期費用は機体、バッテリー、充電器、導入指導込みで約500万円。物流業務は電線の運搬、林業の苗木の運搬、過疎地域への物資輸送のほか、食品輸送に力を入れる計画。

5日、美濃市曾代のドローンミュージアム&パークみのでデモフライトを行った石田宏樹社長（49）は、「ドローンの物流市場は拡大する。物流業務の請け負いを新たな収益の柱に育てたい」と話した。

ロボッツの2024年7

月期の売上高は、昨年参入したドローンショー事業が寄与し、約1億5千万円を見込む。